

試験研究及び研修

5 1 平成19年度試験研究実績表

部門	新 継	研 究 課 題	補助区分	研究期間	概 要
育 林 ・ 育 種	継	バイオテック利用による効率的苗木生産技術の確立	県単	11～20	増殖困難な樹種を中心にバイオテック技術を利用し、効率的苗木生産技術システムを開発する。
	継	造成された複層林の管理方法及び帯状複層林造成方法の開発	県単	16～20	造成後10～15年を経過した複層林の実態調査を実施し、その結果に基づき造成後の複層林の管理方法および複層林造成方法の修正版を作成するとともに、公益的機能と木材生産機能の調和を図る複層林として注目されている帯状複層林の造成方法を開発する。
	継	都市緑化に適した品種の開発	県単	16～25	都市部の屋上、公園、ガーデニング等の緑化において、収益に結びつく品目の選抜・育種を行い、地域特性品種を開発する。
	継	長伐期施業推進に対応した育林技術の開発	県単	18～22	ヒノキ、スギを対象とし、長伐期施業推進のために必要な林分調査、生態生理的な測定を行い、90年～100年生を越える森林を対象とした林分収穫予想表、長伐期林の保育管理指針の作成を試みる。
	新	落葉広葉樹育成のための光管理方法の研究	県単	19～23	低質針葉樹人工林へ落葉広葉樹を導入した混交林、落葉広葉樹の樹下植栽による里山林などの造成管理のための光環境管理指針を作成する。
森 林 保 護	継	ヤノナミガタチピタマムシの生態と対策に関する研究	県単	18～20	ヤノナミガタチピタマムシによる被害が森林公園を中心としたケヤキ林に拡大している。本書虫の集団越冬期における防除技術を、天敵利用を含め検討し、被害軽減方法の確立を目指す。
	新	カツラマルカイガラムシ被害軽減法と被害材の有効利用に関する研究	県単	19～21	県内で急速に拡大しつつあるカツラマルカイガラムシ被害について、その進行から被害回復プロセスを明らかとし、被害の全容を把握する。そこから今後の被害予測及び被害対策と被害材の活用法を検討する。

部門	新 継	研 究 課 題	補助区分	研究期間	概 要
環境保全	継	溪畔域における適切な森林管理技術の開発	県単	15～19	溪畔域における適切な森林管理指導を得ることを目的として、溪畔域における現行の森林管理の状況把握を行い、森林タイプごとの問題点を明らかにし、必要に応じて間伐等の実験的な管理を行い、溪畔域の反応を把握する。
	継	枯れ木の生態学－多様な林分構造を考慮した森林管理手法の検討－	県単	16～20	「生態系としての森林の適切な管理の推進」を達成するために、枯死木や林地残材等を含んだ林分構造の新たな側面を考慮して、多様な林分構造を創出または残存する森林管理手法の検討を行う。
	継	緑化施工地の実態調査と効果的な施工指針の開発	県単	16～20	過去に施工されてきた緑化施工地の実態調査を行い、緑化施工地の生態的位置づけを明らかにすることにより、今後の管理指針を明らかにする。また、効果的な施工方法を検討する。
	継	上九一色村上ノ原地区の半自然草地遷移過程と人為的影響の解明	県単	17～19	上九一色村上ノ原地区に存在する40ha余の草原において、植生の状況と今後の遷移、それに与える人間活動の影響を解明し、適切な管理方法を提案する。
	継	生態的プロセスを重視した針葉樹人工林の林種転換	県単	18～22	山梨県県有林第7次計画では「地位下」と判定された林分の多くについて、経済林から公益林へと作業団を変更することが想定されている。そこで地域の生態的プロセスに着目した効果的な林種転換方法を明らかにする。
	継	野生獣害を軽減する森林施業方法の実証試験	県単	18～20	中山間地の森林の管理放棄が野生動物の行動に影響を及ぼしている可能性が指摘されているが、その検証はほとんどされていない。下刈り及び除間伐がそれに及ぼす影響に焦点を絞り、野生動物問題解決へ的一端を担う。
特用林産	継	新たな地域特産品として活用できるきのこ栽培マニュアル作成	県単	17～21	県内に多数自生する野生きのこ資源を有効に活用するために、それらの中から有望と考えられる種類を選定し、栽培マニュアルを作成する。18年度はブナハリタケの栽培マニュアル作成に着手した。また、有望菌株の収集・調査を進めている。

部門	新継	研究課題	補助区分	研究期間	概要
木材加工	継	県産針葉樹構造用製材品の材質特性の解明	県単	16~19	山梨県内の代表的な林業地帯である南部と東部の2地点で生産されているヒノキおよびスギの製材品の内、柱材を用いて、実大強度試験機での曲げ強度特性やその他の方法により材質特性を解明する。
	継	県産材による土木・建築用製品の部材開発	県単	17~19	県産材を利用した土木や建築製品に共通して使用できる汎用性の高い部材の開発とそれを利用した製品を開発し、県産材の住宅用途以外での需要拡大を図る。
	新	集成材工場における生産効率化のための品質管理技術の開発	県単	19~21	集成材工場の生産効率に影響を及ぼす品質管理上の課題を解決することを目的に、入荷ラミナの強度分布特性の調査、製品・ラミナの接着特性評価による最適な接着条件及び剥離等の発生機構の解明を行う。
機械化技術	新	簡易作業路作設手法の確立	県単	19~21	従来型の実態調査から、経年変化による破損や耐久性、コスト、各種施業との関係などを調査し実践的な簡易作業路の工程から作設全般に関する手引き書を作成する。
植物園	継	山菜類の栽培技術に関する研究	県単	14~20	これまでの研究で増殖可能な知見が得られたモミジガサ、ウワバミソウ、サルナシ、ウコギ等に関して、収益性、低コスト化に対する研究を行う。
	継	特用樹（果実利用・樹液採取）の増殖と栽培法の開発	県単	16~20	八ヶ岳薬用植物園で栽培されている特用樹の中から、樹液採取用樹種としてサトウカエデ、果実用樹種としてフサスグリ、およびラズベリーの増殖法の開発・栽培特性・収穫時期・生産性などについて検討し、栽培マニュアルの作成、商品化および経営指標について検討を行う。
受託	継	富士スバルライン沿線緑化試験	公委	S45~	富士山という特別な地域の中を通る道路である富士スバルラインの沿線の植生の遷移、修景緑化の方法、更新の状況等を調査する。 (山梨県道路公社より受託)
	新	県有林モニタリング事業	県委	19~	全県下に調査地6地点を設け、昆虫多様性、菌類多様性、植物多様性、水質状況、炭素固定量の可能な項目について、伐採が周辺林分に及ぼす影響を中心にモニタリングする。 (県有林課より受託)
	新	高標高地域における松くい虫棲息可能調査	県委	19~21	従来松くい虫分布調査結果からは生息しないとされていた高標高地域において、松くい虫被害木が発見されるようになったことから、松くい虫の生息可能な標高を再度調査し、山梨県における松くい虫の生息可能区域を明らかにする。 (森林整備課より受託)

5 2 平成19年度森林総合研究所及び部内研修実績表

(1) 専門研修(対象者:県及び市町村林業技術者、森林組合職員ほか)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
専門研修	59	793	造林、森林経営、木材加工、林業機械、 特用林産、森林土木等
計	59	793	

(2) 基礎研修(林業教室、対象者:一般県民)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
講演	2	22	「山梨の森林・林業」 「ボランティアとしての森林とのかかわり」
視察	1	20	「赤沢自然休養林」
作業実習	5	59	下刈り、間伐、枝打、高性能林業機械、特用林産
計	8	101	

(3) 指定研修(対象者:林業従事者等)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
小型車両系建設機械	2	3	小型車両系建設機械(3t未満)特別教育
林業架線	15	6	林業架線作業主任者免許規程に係わる講習
はい作業	2	7	はい作業主任者技能講習
計	19	16	

(4) 森の教室(対象者:一般県民)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
体験学習	7	270	植物観察、昆虫教室、キノコ鑑定、枝打ち・間伐・ 炭焼き・キノコ植菌体験、押し花教室
木工・ クラフト教室	11	648	プランター、スパイスラック、竹細工等の製作
計	18	918	

(5) 植物園研修(対象者:農林家、一般県民)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
山の幸教室	10	223	山菜教室、健康茶作り、ハーブ教室、葉草料理教 室、クラフト製作、キノコ採取鑑定、ハーブ料理教 室、つるかご作り、リース作り、キノコ栽培体験
季節事業	注1	117	ブルーベリー摘み取りジャム作り体験
計	10	340	

注1:7~8月に開催

(6) 技能者養成研修(8名が受講し、8名を林業技能作業士(グリーンワーカー)として認定。)

種類	研修教科	研修場所	日数	受講人数	摘要
林業一般	林業一般・樹木学・ 県内林業施設見学・県外視察・ 救急処置	森林総合研究所	8	63	開講式・閉講式・講義
森林施業	森林調査・測量	森林総合研究所	2	16	講義及び実習
間伐	間伐の意義と方法(測量・選木・ 伐採他)	森林総合研究所	4	32	講義及び実習
林業機械	林業架線作業主任者免許規程に より定められている教科及び実技 架線Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	森林総合研究所	15	90	講義及び実習
	高性能林業機械運転練習	森林総合研究所	8	60	講義及び実習
林業器具	刈払機作業、安全衛生教育 チェーンソー・刈り払い機整備	森林総合研究所	1	8	講義及び実技
はい作業	はい作業技能講習(はい作業に 関する知識)(関係法令)	森林総合研究所	2	14	講義
	玉掛技能講習	(社)ボイラー・クレーン安全協会 甲信事務所	3	24	講義及び実技
	小型移動式クレーン運転技能講習	(社)ボイラー・クレーン安全協会 甲信事務所	4	28	講義及び実技
	フォークリフト運転技能講習	陸上貨物運送事業労働災害防止 協会山梨県支部	5	40	講義及び実技
作業道	小型車両系建設機械特別運転教育	森林総合研究所	2	6	講義及び実技
	地山掘削	建設業労働災害防止協会山梨県 支部	3	24	講義及び実技
	作業道作設	森林総合研究所	10	80	講義及び実技
	車両系建設機械運転技能講習	建設業労働災害防止協会	2	8	講義及び実技
計			69	493	

(7) 部内研修

名 称	対 象	内 容	受講者数
保安林実務	森林環境部職員等	保安林実務	39人
デジタルコンパス（フォーマス ジオ L の機能と使い方）	森林環境部職員等	デジタルコンパス（フォーマス ジオ L の機能と使い方）	41人
架線系機械集材技術の基礎	森林環境部職員等	架線系機械集材技術の基礎	5人
日本の国立公園について考える	森林環境部職員等	日本の国立公園制度	76人
森林計画・森林育成・保護研修会	森林環境部職員等	森林計画・森林育成・保護研修会	71人
山梨県簡易作業路作設士養成研修	森林環境部職員等	山梨県簡易作業路作設士養成研修	13人
四万十式作業路に学ぶ	森林環境部職員等	四万十式作業路の特徴	91人
身近な自然の指導法研修	森林環境部職員等	身近な自然の指導法研修	38人
高性能林業機械による間伐搬出実習	森林環境部職員等	高性能林業機械による間伐搬出実習	8人
林道作業道の向こうに何がある～高性能林業機械による出材作業概要～	森林環境部職員等	高性能林業機械による出材作業概要	6人
ツキノワグマの生態と被害管理	森林環境部職員等	ツキノワグマの生態と農林業被害対策	89人
農林バイオマス最前線！ 「グローバル&ローカル」	森林環境部職員等	農林バイオマスの現状と展望	76人
森林生態・野生生物情報	森林環境部職員等	森林生態・野生生物情報	46人
伐木造材に係わる特別教育Ⅰ・Ⅱ	森林環境部職員等	伐木造材に係わる特別教育	12人
草刈り機取り扱い	森林環境部職員等	草刈り機取り扱い	14人
ウッドマイレージ	森林環境部職員等	住宅のウッドマイレージによる評価	56人
森のようちえん概論	森林環境部職員等	森のようちえん概論	74人
森林計画研修	担当者	・森林計画に関する基礎知識 ・森林計画各論	1人
森林情報Ⅰ〔森林調査〕研修	担当者	・森林調査をめぐる現状と課題 ・森林資源調査	1人
林道（初級）Ⅰ研修	担当者	・林道整備の進め方 ・基礎知識・技術の習得	1人
造林・間伐研修	担当者	・造林・間伐事業の円滑な推進 ・森林整備の実際・間伐材の利用事例	1人
林業・木材産業の構造改革推進研修	担当者	・林業・木材産業の構造改革の概要 ・交付金事業計画の作成方針	2人
治山（初級）Ⅰ研修	担当者	・治山事業の考え方 ・治山事業の実務	1人
林道（中堅）Ⅰ研修〔総合〕	担当者	・これからの林道整備事業 ・林道整備の進め方	1人
森林組合指導研修	担当者	・森林組合を取り巻く状況と課題 ・施業集約化と提案型施業の推進	2人

名 称	対 象	内 容	受講者数
治山（中堅）Ⅰ〔治山〕研修	担当者	・治山事業を取り巻く新たな動き ・専門的個別技術	1人
林道（中堅）Ⅱ研修〔個別技術〕	担当者	・これからの林道整備事業 ・林道整備の進め方	1人
森林保護研修	担当者	・森林保護行政の現状と課題 ・森林病虫獣害の現状と防除対策	2人
低コスト作業路企画者養成Ⅲ研修	担当者	・作業路の基礎知識 ・路線計画・調査・設計	1人
治山（中堅）Ⅱ研修〔地すべり〕	担当者	・治山事業を取り巻く新たな動き ・専門的個別技術	1人
森林総合利用研修	担当者	・これからの森林総合利用のあり方 ・森林総合利用における森林の利用と企画・運営	2人
治山（初級）Ⅱ研修	担当者	・治山事業の考え方 ・治山事業の実務	1人
木材利用推進研修	担当者	・木材利用の現状と課題 ・木材利用の推進	1人
森林施業研修	担当者	・森林整備の方向 ・森林施業の実際	1人
治山技術現地研修〔山地治山〕	担当者	・山地治山について現地実習 ・調査、計画、設計等の実務の取得	1人
低コスト作業路技術者養成Ⅳ研修	担当者	・作業路の基礎知識 ・作業路作設実習	1人
木質バイオマス利用促進研修	担当者	・木質バイオマス利用促進のための施策概要 ・木質バイオマスの最新利用技術	1人
林業機械〔高性能林業機械〕研修	担当者	・関係法令 ・高性能林業機械に関する知識	1人
林業普及指導員専門Ⅱ研修〔特用林産〕	担当者	・林業普及指導及び特用林産振興の現状と課題 ・特用林産物に関する知識	1人
林業の担い手確保・育成研修	担当者	・林業労働を取り巻く情勢 ・林業労働力確保・育成の実際	1人